

Bグループ 緑豊かなまちづくり活動

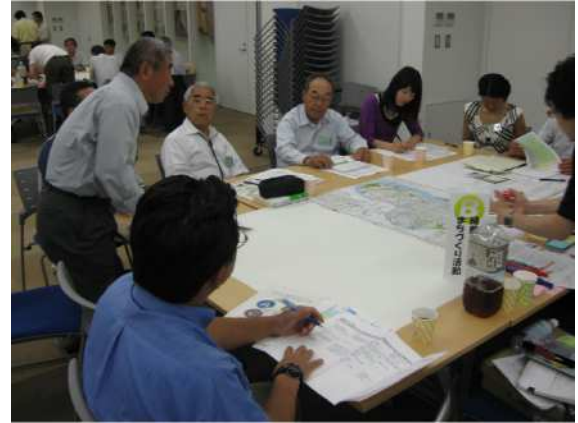
Bグループでは、自分の身近なお気に入りの緑、昨年まで挙げられていた活動の種をあげていき、そこから区民に身近な緑づくり・農園づくりについて検討が進められました。

【活動の種 ～農】

●親しみのある農園づくり

- ・ 現在運営しているふれあい農園には、今日も枝豆の収穫に200人が来た。今後ももっと観光農園を増やしていきたい。
- ・ それには地主の理解が必要
- ・ 農園は草取りが大変（夏場は毎週草取りが必要）
- ・ 親しみのある農園づくりが必要

→農作物に影響のない北側は、ツゲの生垣にしている



●「知る」きっかけづくり

- ・ 農作業に参加したいと思っても、知るきっかけがない。農家の人に育て方などを聞ける場などがあるといい

→区役所や駅前朝市を開催する

→区のホームページや広報は、若い世代はあまり目を通さない。直接学校の掲示板などに貼りだしてアピールする方が良い

→道の駅のような施設はないのか。そこで農産物の直売などをする

→2月のシクラメンのお祭り、7/11の小岩での朝顔祭りなどに出品する

○他のところでは・・・

- ・ 野田では枝豆を振る舞うイベントが行われており、大変人気がある
- ・ 年数回新潟に農業ボランティアに行っている。農家の人に農作業などを教えてもらうことが楽しみ

【活動の種 ～身近な緑づくり（身近な交流活動）】

●学校の緑

- ・ 学校の緑は管理面が悪く危惧している。ほとんど手入れが行き届いておらず、手入れするときは樹木を切り詰めてしまう
- ・ 教育委員会に植物の専門家がいた方が良い
- ・ 一般の人の学校樹木に対する理解が不足している
- ・ 学校側としては、樹木は手間がかかるため不要のものと考えているのではないかと

→老木を手間のかからない樹木に植え替える

→学校教育としては樹種が多いことは重要。宇喜田小は樹種が多く視察なども来ている

→老木は大切にすべき

→学校の環境教育の一環として樹木の手入れに取り組む

●自分たちでできる事は自分たちで

- ・ いきなり学校などの緑を管理することは難しいので、少しずつ管理をする対象を広げていく
- ・ 自分たちでできるものは自分たちで管理をしていくべき
- ・ 東小松川スポーツ公園の花壇は、地元の少年野球チームが管理をしている
- ・ その管理をしている少年が、花壇でいたずらをしている少年をしかっているのを見たことがある。自分が管理をすればそういう行動にもなるのではないか。

→他（隣）の地域をみんなで見に行き、お互いの地域の自慢をシェアする場（発表の場）をつくる

●ご近所での緑づくり

- ・ 道路沿いの軒下で花壇づくりに参加するようになれば、連続した緑がえられる

●アジサイ街道

- ・ 北葛西一丁目会館の沿道にアジサイを植えている。ゆくゆくはアジサイ街道をつくりたい

【活動の種類 ～身近なお気に入り緑スポット】

- ・ 桜並木が自慢（松江第一中学校前・篠田掘親水緑道・小松川千本桜）
- ・ 行船行園の平成庭園には思い入れがある
- ・ 豊田神社のケヤキはすごく立派
- ・ 本郷用水親水緑道などの散歩できる緑道
- ・ 京葉道路のプラタナス（街路樹）はどこよりも立派に育っている
- ・ 大杉橋周辺のもみじバフウとマツの混植街路樹は他にはなく、独自のものだ
- ・ 江戸川河川敷のヒガンバナ・コスモス
- ・ 荒川河川敷を散歩
- ・ 小松川境川親水公園。親水公園などの「線としての緑」が江戸川区は豊か
- ・ キリン公園（上篠崎四丁目公園）の桜